

公益社団法人日本ホッケー協会
令和7年度（2025年度） 事業報告

本協会は、我が国におけるホッケー界を統轄し、代表する団体として、ホッケー競技の普及及び振興に関する事業を行い、人々の心身の健全な発展と豊かな社会の創造に寄与することを目的としており、令和7年度も目的に沿った事業の運営を行った。

1. ホッケー競技の普及、指導者の育成に関する事業

本協会では、児童・生徒から一般競技者、愛好者に至るまで、広くホッケー競技に触れる機会を提供し、ホッケー競技というスポーツを通じて運動能力、体力向上に貢献する事業を行った。また、ホッケー競技を普及するために不可欠な指導者の育成も行った。

(1) 夢見るホッケー教室

ホッケー競技の普及と競技力向上をめざし、オリンピックや現役/元日本代表選手によりホッケーの楽しさと魅力を伝えるとともに、あらゆる人々がスポーツを楽しめる機会を提供する事業。普段はホッケー競技に馴染みのない方々にもホッケーの迫力を直接肌で感じ、選手と触れ合い、スポーツの魅力を伝えることを目的としている。財源は、受取補助金等（(独)日本スポーツ振興センター）および受取寄付金等に拠る。

(令和7年度実績)

「夢見るホッケー教室」(全9回開催)

開催日程：6月28日～2月22日

開催場所：山梨県立白根高等学校 第二運動場（山梨県）他

各回の実施報告はホームページに掲載している。

(2) U-12ブロック選考会/U-12ドリームキャンプ/U-12オールスター戦

1) U-12ブロック選考会

370名以上の小学生世代のプレーヤーが参加し、ブロック地区で選考会および各地区の社会人チーム選手のホッケークリニックやブロック単独合宿を開催する等、地域間交流の場として実施した。

(令和7年度実績)

7月27日～9月28日 全国7地区にて開催

2) U-12ドリームキャンプ

U-12ブロック選考会で選出された、男女合わせて120名の選手が全国から一堂に会し、ホッケースキルの向上だけではなく、現役のサムライジャパンの選手から将来の夢に向かって諦めない心について実体験を聞くなどの研修も開催し、小学生世代の心身の育成も図る目的で開催した。

(令和7年度実績)

11月29日～11月30日 グリーンランドみずほ(京都府)

3) U-12オールスター戦

東京オリンピックが行われた大井ホッケー競技場で紅白戦を開催した。U-12ドリームキャンプから男女各30名の選手がU-12日本代表として選出されて参加した。開催前に、JADA(日本アンチ・ドーピング機構)との連携による保護者・指導者向けのアンチ・ドーピング講習を開催。

また開催期間中は選手の座学講習として管理栄養士による、スポーツをするジュニア世代の食事の摂り方の考えについての講習を開催した。

(令和7年度実績)

2月28日～3月1日 大井ホッケー競技場メインピッチ(東京都)

(3) 指導者講習会

1) (公財)日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者育成

(公財)日本スポーツ協会からの受託事業として指導者講習会を実施した。令和7年度はコーチ3・4の専門科目講習会を実施した。また、カリキュラムの見直し、アクティブラーニングの導入促進、オンラインと対面を組み合わせた実施による参加者の負担軽減など、指導者養成事業の充実に取り組んだ。(令和7年度実績)

前期講習会:6月7日～8日(東京都)

後期講習会:1月17日～18日/1月31日～2月1日(オンライン+大阪府)

2) 指導教本作成

各年代の発育段階に応じた適切な指導方法を普及させるため、小学生、中学生、高校生の各指導者に向けた教本を作成している。(単価2,000円)

財源は、販売収入(教本等)に拠る。

(令和7年度実績)

販売部数 10部

3) その他講習会等

①海外優秀指導者招聘事業

国内のペナルティーコーナー技術の向上を目的として、アトランタ・シドニー

オリンピック金メダリストで元オランダ代表選手を招聘し、世界トップクラスのコーチングセミナーを7月2日～10日にナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点および大井ホッケー競技場（岐阜県各務原市・東京都品川区）で開催した。

また、12月27日～28日には慶應義塾大学日吉グラウンド（神奈川県横浜市）において、ペナルティーコーナー技術向上を目的としたコーチングセミナーを開催した。

（4）公式ホッケータウンの認定

令和5年度に、当協会の創立100周年を機に、これまでホッケー競技を支えていただいた、そして今後も共にホッケーを普及振興していただける市区町村と連携し、ホッケーの普及とホッケーを通じた地域の活性化を共に行い、相互のさらなる発展を目指すことを目的として「公式ホッケータウン認定制度」を開始した。令和7年度も第3期として2つの自治体が公式ホッケータウンに認定され、第1期、第2期合わせて合計27自治体となった。

また、2月には対面・オンラインで「ホッケータウンプレサミット」を実施した。

（令和7年度実績）

第3期公式ホッケータウン認定自治体： 茨城県東海村、栃木県日光市

2. ホッケー競技の競技力の向上に関する事業、並びにホッケー競技の国際競技大会等に対する代表参加者の選定及び派遣に関する事業

国内におけるホッケー競技の競技力向上を図り、日本代表としてオリンピックをはじめとする国際競技大会に参加する選手を選定し派遣した。

（1）選手強化

1）強化合宿、海外遠征

競技力向上事業の一環として、日本代表候補選手の強化合宿、アンダーカテゴリー世代の競技者を対象とした合宿が主なものである。各種合宿は、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点（岐阜県各務原市）の他、本年度から公式ホッケータウンで受け入れをしていただいた。（富山県小矢部市、岩手県岩手町、岡山県岡山市・赤磐市、東京都品川区、鹿児島県薩摩川内市）。公式ホッケータウンでの合宿時には、地域住民との交流も行った。

また、国立スポーツ科学センターでの測定・科学的データを用いた技術向上を目的とするものや、海外経験の蓄積・国際競技力向上を目的とした海外合宿も実施した。財源は、受取負担金（参加者負担金）、受取寄付金、受取補助金等（(公財)日本オ

オリンピック委員会)の選手強化NF事業補助金、((独)日本スポーツ振興センター)等に拠る。

(令和7年度実績)

男女全カテゴリー(シニア/U-21/U-18/U-15)において代表選考会および強化合宿、海外遠征を実施した。選手強化NF事業補助金・スポーツ振興くじ助成を受けた事業として、ホームページに掲載している。

(2) 国際競技大会への代表参加者選定及び派遣

国際競技大会に対し、事前に設けた選考基準に則り日本代表選手を選考し派遣した。

財源は、受取負担金(参加者負担金、受取寄付金、受取補助金等((公財)日本オリンピック委員会)の選手強化NF事業補助金、((独)日本スポーツ振興センター)のスポーツ振興くじ助成に拠る。

(令和7年度実績)

《派遣された大会(サムライジャパン(シニア男子日本代表))》

- ・第3回ネーションズカップ(マレーシア) 7位
- ・第12回アジアカップ(インド) 5位
- ・ニュージーランドテストマッチシリーズ(ニュージーランド) 1勝2敗1

分け

- ・第16回FIHワールドカップ最終予選(エジプト) 3位 ※ワールドカッ

プ出場権獲得

《派遣された大会(さくらジャパン(シニア女子日本代表))》

- ・第3回ネーションズカップ(チリ) 6位
- ・第11回アジアカップ(中国) 3位
- ・ニュージーランド3ヶ国大会 3位
- ・第16回FIHワールドカップ最終予選(チリ) 4位 ※ワールドカップ出場

権獲得

《派遣された大会(U-21男子日本代表)》

- ・第10回FIHジュニアワールドカップ(インド) 14位

《派遣された大会(U-21女子日本代表)》

- ・第11回FIHジュニアワールドカップ(チリ) 11位

《派遣された大会（U-18男子日本代表）》

- ・AHF ユースアジアカップ（中国）優勝
- ・第4回 NHDP ミルナワンカップ（マレーシア）優勝

《派遣された大会（U-18女子日本代表）》

- ・AHF ユースアジアカップ（中国）優勝
- ・第4回 NHDP ミルナワンカップ（マレーシア）優勝

（3）医科学サポート

1）科学サポート

国際競技大会や国内主要競技大会、各種強化合宿において、競技者の体力や技術に関する測定、それらを収集したデータの解析、研究結果の指導現場へのフィードバック等を中心に、客観的データやバイオメカニクス研究を中心とする科学的サポートを実施した。

財源は、受取寄付金および受取補助金等（（公財）日本オリンピック委員会）の選手強化NF事業補助金）に拠る。

（令和7年度実績）

主にナショナルチーム（サムライジャパン・さくらジャパン）の強化合宿等において、ウェアラブルGPSトラッカーやコンディション管理アプリ、スポーツ映像分析ツールを導入し、科学的な面から競技者に対してサポートを実施した。

2）医学サポート

国際競技大会や国内主要競技大会、各種強化合宿において、ドクターやトレーナーを派遣し、選手のコンディションや疾患、障害の予防や治療、栄養サポート等の啓蒙を行った。

財源は、受取寄付金および受取補助金等（（公財）日本オリンピック委員会コーチ設置事業）に拠る。

（令和7年度実績）

選手強化NF事業及び国内主要競技大会、各種ホッケー普及イベントにおいて、ドクターや看護師、トレーナーや栄養管理士を派遣し、医学的な面からも競技者に対してサポートを実施した。

3）ドーピング防止活動

ドーピング検査「治療目的使用に係る除外対象措置（TUE）」申請の指導や、内容確認の他、日本代表候補選手及び指導者に対する講習会の実施、情報提供のため（公財）日本アンチ・ドーピング機構発行の教材を与え、啓発活動を行った。また、（公財）日本アンチ・ドーピング機構や国際ホッケー連盟（FIH）に居場所情報を報告した。

財源は、受取補助金等（（公財）日本スポーツ協会、（独）日本スポーツ振興センターのくじ助成金に拠る。

（令和7年度実績）

- ・U-15中央選考会
- ・U-21女子/U-18女子強化合宿及びU-12オールスター戦、また全日本学生ホッケー選手権大会及び全国統一ルール研修会において、教材を用いながら研修会を実施した。

3. ホッケー競技の国際競技大会、国内競技大会の開催に関する事業

（1）ホッケー競技に関する国際競技大会及び国内競技大会の開催

国内競技大会は、全日本選手権大会をはじめとする全国大会を16大会開催した。

財源は、受取参加料、受取補助金等（開催地自治体、（独）日本スポーツ振興センター等）、受取協賛金に拠る

《国内競技大会》

「第44回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦」

開催日程：7月10日（木）～7月13日（日）

開催場所：立命館 OIC フィールド、親里ホッケー場

「男子第88回・女子第67回全国高等学校ホッケー選手権大会」

開催日程：8月2日（土）～8月6日（水）

開催場所：鳥取県立八頭高等学校ホッケー場、ヤマタスポーツパーク（鳥取県）

「第2回 社会人女子プレミアムカップホッケー」

開催日程：8月9日（土）～10月19日（日）

開催場所：今市青少年スポーツセンター人工芝競技場、コカ・コーラレッドスパークスホッケースタジアム、大井ホッケー競技場（サブピッチ）

「第55回全日本中学生ホッケー選手権大会」

開催日程：8月16日（土）～8月18日（月）

開催場所：綾川町ふれあい運動公園（男子）、松前町国体記念ホッケー公園ホッケー

場（女子）

「男子第67回・女子第47回全日本社会人ホッケー選手権大会」

開催日程：9月6日（土）～9月10日（水）

開催場所：三沢高等学校グラウンド、六ヶ所村内子内農山村広場多目的広場（青森県）

「第48回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会」

開催日程：9月13日（土）～9月15日（月・祝）

開催場所：大井ホッケー競技場（メインピッチ・サブピッチ）（東京都）

「第23回全日本マスターズホッケー大会」

開催日程：9月20日（土）～9月21日（日）

開催場所：小矢部ホッケーフィールド by 三井アウトレットパーク

「第79回国民スポーツ大会ホッケー競技」

開催日程：10月1日（水）～10月5日（日）

開催場所：OSPホッケースタジアム、米原市伊吹第1グラウンド（滋賀県）

「第26回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会」

開催日程：10月25日（土）～10月26日（日）

開催場所：福井県立ホッケー場、越前町宮朝日総合運動場

「男子第74回・女子第47回全日本学生ホッケー選手権大会」

開催日程：10月30日（木）～11月3日（月・祝）

開催場所：大井ホッケー競技場（メインピッチ・サブピッチ）（東京都）

「第86回全日本女子ホッケー選手権大会 出場プレーオフ」

開催日程：11月2日（日）～11月3日（月・祝）

開催場所：境町ホッケーフィールド（茨城県）

「第99回全日本男子ホッケー選手権大会 出場プレーオフ」

開催日程：11月3日（月・祝）

開催場所：境町ホッケーフィールド（茨城県）

「第86回全日本女子ホッケー選手権大会」

開催日程：11月20日（木）～11月23日（日）

開催場所：大井ホッケー競技場（メインピッチ）（東京都）

「第99回全日本男子ホッケー選手権大会」

開催日程：11月20日（木）～11月23日（日）

開催場所：大井ホッケー競技場（メインピッチ）（東京都）

「第6回マスターズホッケー JAPAN CUP」

開催日程：11月29日（土）～11月30日（日）

開催場所：大井ホッケー競技場（メインピッチ・サブピッチ）（東京都）

「第57回全国高等学校選抜ホッケー大会」

開催日程：12月20日（土）～12月24日（水）

開催場所：川崎重工ホッケースタジアム、岐阜各務野高等学校ホッケー場（岐阜県）

（2）登録

競技大会への出場、または公認競技役員資格の取得のため、登録を実施した。

登録の実質的な手続きや登録料の徴収は、登録システムを通して実施しており、本協会は各都道府県協会所属のチーム・競技役員からの登録情報を集約してデータ化している。なお、本協会登録の登録に係る収入は、チーム・個人・競技役員別の金額を設定している。財源は、受取登録料（チーム・競技役員）に拠る

（3）競技規則の制定及びホッケー競技規則（ルールブック）の発行

本協会では、FIHが制定する競技規則をもとに、国内用の規則を制定している。これらの諸規則をまとめた「ホッケー競技規則（ルールブック）」を国際に合わせて発行した。

財源は、受取登録料（チーム、競技役員）に拠る。

実績：データをホームページに掲載

（4）施設・用器具の検定及び公認

本協会は、競技に参加する選手がその技量を十分に発揮できる公正かつ安全な競技環境を整備するとともに、国際ホッケー界の趨勢を踏まえた高水準のホッケー用具及び施設の普及を図るため、ホッケー競技場の人工芝施設や用器具を検定し、規定に定める要件を満たした施設及び用器具を公認した。財源は、公認料（用具製造販売事業者・人工芝製造・販売指定企業）に拠る。

（令和7年度実績）

《人工芝競技場公認》

- ・ いすみ市大原グランド陸上競技場（千葉県）
- ・ 八頭高校ホッケー場（鳥取県）
- ・ 川崎重工ホッケースタジアム A・B（岐阜県）
- 《用具製造販売事業者》
- ・ 株式会社ジャンボ他4社
- 《人工芝製造・販売指定企業》
- ・ アストロスポーツ株式会社他2社

（5）審判員の資格付与

本協会が定める「公認競技役員規程」に則り、A級、B級、C級及びD級審判員資格を付与している。また、本協会は国際ホッケー連盟（F I H）及びアジアホッケー連盟（A H F）の加盟団体として、一定の基準を満たした審判員を国際審判員に推薦している。さらに、国際大会で活躍できる審判員及びアンパイアマネージャー（U M）の育成を目的として、海外から講師を招聘した講習会を実施した。

資格合格者数実績 A級：3名、B級：8名、C級：30名、D級：155名

（6）競技役員（テクニカルオフィシャル）の資格付与

本協会が定める「公認競技役員規程」に則り、T 1～T 4の資格を付与している。また、本協会は国際ホッケー連盟（F I H）及びアジアホッケー連盟（A H F）の加盟団体として、一定の基準を満たした競技役員（テクニカルオフィシャル）を国際オフィシャルに推薦している。

資格合格者数実績 T 1：4名、T 2：13名、T 3：7名、T 4：186名

4. その他主な活動実績

（1）広報誌の発行

本協会では、機関誌としてホッケーマガジン「HOCKEY・YEAR BOOK」を年1回発行し、登録会員や一般購読者に対して、ホッケー界の動向や各種事業の実施状況等に関する情報発信を行っている。本誌は1部2, 200円で頒布し、都道府県ホッケー協会をはじめ、学校、図書館、実業団チーム、パートナー企業、自治体、関係企業等に幅広く配布している。

また、ホッケー競技及び本協会の活動を広く周知するため、公式ホームページ、動画配信チャンネル及び英語版ウェブサイトを運営し、競技関係者のみならず、ファンや一般の方々に対しても情報発信を行っている。

さらに、日本代表選手の発表、国際競技大会や国内主要大会に関する記者発表、各種プレスリリースの配信等を通じて、メディアへの情報提供及び広報活動を推進し

た。

財源は、広告収入（機関誌）、販売収入（機関誌）および、（独）日本スポーツ振興センター）のスポーツ振興くじ助成に拠る。

（令和7年度実績）

「HOCKEY・YEAR BOOK 2024（No. 162）」
2025年9月30日発刊（定価2,200円（税込・送料別））

（2）HPおよびYouTubeチャンネルの運用など

ホームページの運用においては、迅速かつ正確な情報発信に努めるとともに、ホッケー競技に関する情報や本協会の活動実績を継続的に発信し、情報の蓄積及びアーカイブ化を推進した。

また、全国大会におけるライブ配信の実施や映像制作体制の構築を進めるとともに、日本代表チームの活動、ワールドカップ予選をはじめとする国際大会の結果速報等を積極的に発信し、ホッケー競技の魅力や価値の発信に努めた。さらに、競技普及や技術向上に資する動画コンテンツの制作・配信を行った。

（令和7年度実績）

- ・ JHA 公式 YouTube 登録者数 8,960 人（前年同期比 6%増）
- ・ 配信動画数 30 本、ライブ配信 9 本

SNS の活用においては、Facebook 及び Instagram を通じて、本協会の事業や各種大会に関する最新情報を発信するとともに、ファンとのコミュニケーションの場を提供した。また、サムライジャパン及びさくらジャパンの公式アカウントとも連携し、効果的な情報発信に努めた。

（3）国際活動

国際ホッケー連盟（FIH）理事会（6月（オランダ）、11月（フランス））及びアジアホッケー連盟（AHF）理事会（4月（インドネシア）、12月（オンライン））に参加するなど、国際競技団体との関係強化に努めた。なお、AHF 及び FIH には複数の日本人理事を輩出している。

加えて、JOC の IF ポスト獲得支援事業（スポーツ庁委託事業）を活用し、役員及び事務局職員を海外の国際会議や競技大会へ派遣した。これにより、FIH、AHF 及び各国ホッケー協会（NF）との関係強化を図るとともに、日本人役員の国際競技団体における活動を支援し、本協会の国際的プレゼンスの向上に努めた。

令和6年度より継続して実施している取組みとして、日中韓の連携を強化し、シニ

ア男女代表チームによる3か国トーナメントを持ち回りで開催することを確認した。5月には女子代表さくらジャパンが中国北京に招待され日中韓3か国トーナメントに参加し、12月には男子代表サムライジャパンが韓国代表チームを日本に招待して強化を図った。

さらに、海外在住のホッケー関係者とのネットワーク構築と定期的な情報交換を実施し、各国のホッケー事情や、今後海外でのプレーを希望する選手に対する支援策や課題等について情報共有を行った。

(4) マスターズ関連

11月26日～11月30日の5日間、香港フットボールクラブホッケースタジアム（中国香港）で開催されたWMH Asian Continental Championshipsに、男子50+及び男子60+の日本代表チームを派遣した。派遣人数は、男子50+が選手16名、男子60+が選手18名、スタッフ・役員5名であった。競技成績は、男子50+が準優勝、男子60+が第3位となり、いずれのカテゴリーにおいても優秀な成績を収めた。マスターズカテゴリーにおける国際競技活動のさらなる充実を図るため、今後は参加カテゴリーの拡大についても検討を進めている。

(5) 法務・コンプライアンス及びスポーツインテグリティ

健全な協会運営とスポーツインテグリティの推進に寄与し、対外的な信用を高めるとともに、ホッケー競技の価値向上に資するため、契約書類の確認・作成、訴訟対応その他各部門からの法務相談に対応する体制を整備した。

また、法務リスクの把握及び軽減に努めるとともに、法令等の遵守を前提として実情に適合した協会内規程等の整備を進め、ホッケー協会内及び関連団体に対するコンプライアンスの周知徹底に取り組んだ。

さらに、フェアプレー精神の醸成、安全・安心な競技環境の確保及びアンチ・ドーピング活動との連携を通じて、スポーツインテグリティの推進に努めた。

(6) アスリート委員会

アスリート目線でのホッケーの認知向上と普及、競技継続における課題の明確化、世代横断的にアスリートをサポートしニーズを集約した。具体的には、LGBTQやジェンダーギャップ、スポーツメンタル等各種研修の開催、さくら・サムライジャパンスキルアップイベントの開催、女性コンディション研修、渋谷区との継続的連携・モデル構築としてスポーツフェスへの出展等を行った。